

知事と県民の意見交換会（山本地域振興局）議事要旨

- テーマ： 街・里のポテンシャルを活かした「人を呼び込む仕掛けづくり」
～起業・交流人口拡大による山本地域の元気創造に向けて～
- 日時： 令和3年9月8日（水）10：00～11：30（オンライン開催）
- 参加者： A氏（注文家具屋ミナトファニチャー、合同会社のしろ家守舎）
B氏（オオヤマファーム）
C氏（株式会社kanata factory代表取締役）
D氏（合同会社ほしあわせ代表）
E氏（わにさん農園、wanisun market代表）

佐 竹 敬 久（秋田県知事）
栗 田 亨（山本地域振興局長）

知事挨拶

この意見交換会は、現場で実践される若い方々の御意見を伺い、県の各種計画や予算に反映するため開催するものである。

本県における最も重要な課題は、若者の県内定着に向けた賃金水準の向上である。

そして、能代山本地域では再生可能エネルギーの導入促進に向けた動きが盛んであり、どう活用するか、どう地元利益がもたらされるようにするかが課題である。

さらに、これからの社会のベースとなるデジタル化への対応も欠かせない。

賃金向上、再生可能エネルギー、デジタル社会は、県政における大きな柱である。

この意見交換会のテーマは「人を呼び込む仕掛けづくり」、「起業・交流人口の拡大」であるが、いずれも県政の柱と関連するものである。

本日は、遠慮なく自由に御発言いただければ大変ありがたい。よろしくお願いします。

取組紹介

「マルヒコビルディングについて」

合同会社のしろ家守舎 代表社員 A氏

能代市の中心市街地「元町」の空き店舗「旧丸彦商店」をリノベーションし、コワーキングスペース・シェアオフィスを核とした人が集う活動拠点として再生した「マルヒコビルディング」の概要紹介。

- ・令和2年にまちづくり会社「合同会社のしろ家守舎」を立ち上げた。
- ・2年前に開催された県の「動き出す商店街プロジェクト」事業に参加し、「エリアイノベーション」という手法を学んだことが、会社を立ち上げるきっかけとなった。
- ・このプロジェクトに参加していたメンバーと共に街中の課題を掘り起こし、「子どもの遊び場がない」、「子育てママたちの居場所がない」、「木都能代らしい場所がない」、

「空き店舗だらけ」という４つの問題が浮かび上がった。

- ・この４つの問題を解決する活動拠点を構えようとしたところ、能代市役所の支援により、空き店舗であった旧丸彦商店との御縁ができた。
- ・旧丸彦商店のオーナーさんが「街を元気にするためなら」と、快く物件を貸して下さったことから、建物をリノベーションし、マルヒコビルディングをオープンさせた。
- ・コワーキングスペース・シェアオフィスには、地元の木材をふんだんに使用している。
- ・現在、シェアオフィスにはデザイン事務所、地域おこし協力隊の活動拠点、英会話教室、洋上風力関係の会社などが入居している。

（知事）

施設内に入居する事業者数はどうか。

（Ａ氏）

事務所としてのスペースは６部屋あり、さらに共同のコワーキングスペース（デスク貸し）が４つあり、計１０事業者が入居している。

（知事）

施設の運営費等はどうしているか。

（Ａ氏）

入居事業者からの家賃収入が主な収益となっている。

（知事）

初期投資はどのように対応したか。

（Ａ氏）

県の補助金などを活用している。

参加者自己紹介

（Ａ氏）

平成２９年、能代市にＵターンした。

本業は「ミナトファニチャー」という注文家具屋を営んでいる。

また、のしろ家守舎の代表も務めており、家具作りをしつつ、街を見ながら日々の活動をしている。

（Ｂ氏）

能代市で「オオヤマファーム」を営んでいる。

平成２３年、東日本大震災の直後にＵターンした。

実家の米作りを手伝いつつ、無農薬の野菜、マイクロ野菜、エディブルフラワー（食用の花）を生産し、県内各地の飲食店や洋菓子店などに卸している。

また、前職であるインテリアコーディネートの経験を生かし、イベントプロデュースや商品パッケージのディレクションなどを行っている。

今年４月からマルヒコビルディングに入居しており、プロデュースやディレクションの仕事も増やしていきたいと考えている。

(C氏)

義父が立ち上げた製材会社の社員として、令和2年1月に能代市へ移住した。移住前は兵庫県でウェブデザインや通販サイトの仕事をしていた。

令和2年4月、能代山本地域の情報ポータルサイト「能代ポータル」を開設した。ポータルサイトを立ち上げたきっかけは、地元の人が地域の魅力に気付かず、能代には何も無いと思っていたり、情報発信に消極的ということからであった。

地域内で認知されるとともに、ウェブサイト制作などウェブ関係の依頼が増えてきたことから、令和2年10月にウェブデザインの会社を立ち上げた。

令和3年3月には、マルヒコビルディングの2軒隣にある空き店舗をリノベーションし、オフィスを構え、能代山本地域におけるウェブ媒体のクオリティ向上を目標に活動している。

(D氏)

合同会社ほしあわせの代表を務めている。

能代市に移住する前から山のガイドを行っているが、ガイドの先輩が能代市在住であり、その御縁で能代に遊びに来ることがあった。その度に、食べ物のおいしさや自然の素晴らしさ、人との出会いなどがあり、住んでみたいという好印象を持っていた。

そうしたタイミングで地域おこし協力隊の募集があったことから、平成30年4月、宇宙のまちづくりを担当する能代市の地域おこし協力隊となり移住した。

移住前は、長野県阿智村で星空ナイトツアーに関わってきたが、星によって村が変わっていく様子を目の当たりにしてきた。秋田でも是非、こうした取組ができればと思っている。

地域おこし協力隊の任期中、本日御参加のAさんをはじめ、様々な方々との出会いがあった。

現在、能代駅前の空き店舗をリノベーションし、「ほしのしろ」という「プラネタリウムヨガスタジオ」を運営している。この物件との出会いは能代商工会議所の紹介がきっかけであり、様々な御縁によりここに至っている。プラネタリウムヨガスタジオというコンセプトは、開設当時は日本初の試みであった。

会社としてのほしあわせは、ほしのしろ運営のほか、星を活用した地域活性化のコンサルティング、星空案内、ガイド養成、イベント企画などを行っている。

(E氏)

青森県出身で、約8年前に家族と共に三種町に移住した。

三種町森岳地区で「わにさん農園」というりんご園、「wanisun market」という商店と「和笑家」という飲食店を運営している。

この地域をどうにかして盛り上げたいという思いで、地域の方々の助けを借りながら営業している。

本日参加されている方々のお話を聞くことを楽しみにしていた。自身の活動に生かしていきたい。

意見交換（前半）

(局長)

本日は「起業・交流人口拡大による山本地域の元気創造に向けて」をサブテーマとして

いる。

昨今、能代市中心部では、空き店舗をリノベーションした新たな取組がいくつも展開されている。

そこで、「街にあるポテンシャルを活かした起業・にぎわいづくり」という視点から、4人の方にお話いただきたい。

はじめに、Aさんに伺う。

先ほど紹介いただいたマルヒコビルディングは、貸しオフィスやコワーキングスペースを備え、「人が集う仕掛け」が意識された場所だと感じた。

マルヒコビルディングのコンセプトや今後の展開について、今一度お聞かせいただきたい。

（A氏）

街の中に足りない要素を詰め込んだ場所にしたいという思いがある。

第1期工事として2階部分にオフィスを整備したが、今後は、1階と地下の工事に着手する。

1階には食事ができるカフェと子どもの遊び場を設け、子どもを抱えたママたちや放課後の子どもたちが集う、街中で子どもの姿が見えるにぎわいある場所としていきたい。

地下には、木都ならではの取組として、DIYの学校を作ろうと考えている。DIYのスキルを身に付けた人が、空き店舗を自らリノベーションすることができるような実践的なレベルを学べる場としたい。

現在、2階のオフィスには様々な業種の方が入居しており、交流を契機とした新しい事業や取組が生まれている。こうしたことは、今までの能代にはなかった光景だと思う。

新しい事業者を呼び込んで、新しい仕事を創るということが、街にとって大切なことだと感じている。

のしろ家守舎としては、新しい仕事を創るという「事業支援」、カフェなどによる「コミュニティづくり」、DIYの学校による「創業支援」、子育てママたちの居場所をつくるという「子育て支援」の4点を事業の骨組みと位置づけ、活動していく。

（局長）

1階のカフェスペースは、外から見えるような造りとするのか。

（A氏）

木製サッシを前面に張り、オープンにすることで、子どもたちが遊ぶ様子やコーヒーを楽しむ方々でにぎわう風景を街の中に見せていきたい。

（局長）

次に、Bさんに伺う。

1センチにも満たないズッキーニなどのマイクロ野菜や食べられる花など、他の農産品との差別化を図るご自身の販売戦略を基に、食品事業者における商品開発のトータルディレクションを行っているとのことだが、事業者を支援する取組についてお聞かせいただきたい。

また、マルヒコビルディングのコワーキングスペースを活用されているとのことだが、そこに拠点を置いた狙いについてもお聞かせいただきたい。

（B氏）

先ほど畑から、マイクロトマト、マイクロキュウリ、ほおずきトマトを収穫してきた。こういったものを飲食店に卸している。

オオヤマファームを知っている人からは、「何屋さんなのか」という質問をいただくことがある。自分自身も、明確に説明することは難しいと感じているが、農家の在り方は一つとは限らないと思っている。

農家のことを「百姓」ともいうが、「百の商いができる」という意味だと捉えている。

今は、副業をすることは普通のことになってきている。農家は、農業をやりながら自分のやりたいことができる仕事だと思う。

ここ数年で、ディレクションやパッケージデザインなどの依頼が増えてきている。自分は「ディレクション」という屋号や名刺を持っているわけではないが、農家である自分に対し、こうしたオーダーが寄せられている。

盛り付けとはデザインそのものだと思っている。飲食店に野菜を提供する側としても、その野菜がどのような皿に、どう盛り付けられ、どういった店舗インテリアの下で提供されるかといったところまでの感性が求められる。

単に野菜を栽培できれば売れるということではなく、提案力、コーディネート力、営業力など、トータル的に何事にも対応できる力が必要となる。

これらのことをプロデュース、ディレクション、編集など、様々な表現で言うことができると思うが、自分自身は「コーディネート」だと思っている。

マルヒコビルディングに拠点を置いた理由も、コーディネートという仕事を通じて、様々なことに取り組みたいと考えたからである。

例えば、加工品を作るとして、味付け、パッケージデザイン、販売方法などのトータルな対応が必要となるが、こうしたコーディネートを仕事としている人は少ない。

目下、県内の飲食店はコロナにより大変厳しい状況にある。少しのコツで大きく変わることができると思うが、メニュー表やポップ、SNSに用いる写真の撮り方や盛り付けの仕方などに工夫を加える時間の余裕がある飲食店はほとんどない。

そうした部分をサポートすると、飲食店より「注文が入った」という声が寄せられ、それが口コミとなって次のコーディネート依頼につながっている。

今後は、コーディネート業務を主とした個人事業主としても活動していきたいと考えており、それがマルヒコビルディングに入居した理由でもある。

（局長）

「少しのコツ」に気付くことが難しく、困っている方が多いのではないかとと思われる。

コーディネートセンスがあるBさんのような方のサポートにより気付いてもらうことが大事だと感じた。

（局長）

次に、Cさんに伺う。

能代市中心市街地にある空き店舗をリノベーションし、拠点とされているが、この場所に注目した理由や1階スペースを「レンタルスペース兼フォトスタジオ」として地域に開放する狙いなどについてお聞かせいただきたい。

（C氏）

ウェブサイトの制作や通販サイトのコンサルティングを主たる仕事としていることから、当初は、拠点を置く場所はどこでもよいと考え、郊外にある物件を候補としていた。

そうした中で、能代市中心市街地において地域コミュニティが活発となっていることを感じ、さらに、空き店舗を活用したマルヒコビルディングやほしのしろの存在が、この場所を選ぶ最大の理由となった。

空き店舗がオープンすると、その場所を目的とした新たな利用が増える。マルヒコビルディングにも多くの利用者が出入りするようになり、ウェブサイトに関するニーズも高まると思われる。

出身は兵庫県で、能代には昨年移住したばかりであることから、当初は「中心市街地を盛り上げるため」とか「地域貢献」といったことはあまり考えていなかったが、移住してきた者が空き店舗を活用し、ビジネスができているということ、地域の方々に見てもらうことで何かを感じてもらえることがあればと思っている。

1階はレンタルスペース兼フォトスタジオ、2階は事務所としている。

ウェブサイトの制作や通販サイトには写真の撮影が必要となるため、1階を撮影スペースとした。当初は、地域に開放する想定はなかったが、セミナーや発表会、子どもの撮影などで、リノベーションした場所を有効活用してもらい、少しでも地域のにぎわいにつながればと思い、開放することにした。

将来的には、別事業の展開により1階を展示スペースにしたいという構想もある。空き店舗は広さがあり、ビジネスを始めるには魅力的な物件ともいえる。

（局長）

本日の意見交換会冒頭でAさんより「エリアイノベーション」というお話があった。

能代市中心市街地では、本日御参加の皆様のみならず、特徴ある取組が見られるようになってきている。

点と点がつながり、エリアとして広がっていくという動きが、街のにぎわいづくりにつながるのではないかと感じた。

（局長）

次に、Dさんに伺う。

「能代」、「プラネタリウム」、「ヨガ」という組合せは非常に斬新であり、大変盛況であると聞いている。

起業に当たっては、消費者の見えざるニーズを顕在化させ、そのニーズに合わせていくことが大切と思われるが、どのようなプロセスで開業に至ったか、地域のサポートも含め、お聞かせいただきたい。

（D氏）

外から移住してきた者として感じることは、地域の方が「ここには何もない」と強く思っているということである。

景色も良いし、食べ物もおいしいと思うが、住み続けている人にとっては当たり前のことで、その良さに気付かないのかもしれないと思う。

そこで、地域おこし協力隊として、能代の魅力を発信していこうと活動していたところ、能代駅前の物件を紹介いただいた。

折しも、夜の能代駅前には営業しているお店がなく、列車を降りると真っ暗で寂しいことが気になっていた。

夜の能代駅前で営業している目新しい建物があり、何か新しいことが始まっている、新しいことを始めている人がいるということを感じてもらえることができれば考えるように

なり、地域おこし協力隊としての活動テーマである宇宙のまちづくりと組み合わせ、プラネタリウムヨガスタジオというコンセプトに至った。

プラネタリウムヨガスタジオの実現に当たっては、地域おこし協力隊としての活動を通じて、Aさんをはじめ、地域で活躍する若い方々に出会えたことが後押しとなった。

能代駅前の物件を内覧した際、オーナーさんからは「2階は老朽化しているので貸すことはできない」と言われた。無理をお願いして案内してもらったところ、窓には板が打ち付けられていて、真っ暗で、まるでお化け屋敷のようであった。

ただ、星空に関する仕事を長年してきた自分としては、この暗闇空間はプラネタリウムとして生かすことができると感じた。

秋田の冬は寒く、天気も悪いことから体を動かす機会が少ない。この場所で体を動かし、健康寿命を延ばすということに対し、利用ニーズがあるのではないかと考えた。

また、自分自身も感じていることだが、若い人が遊びに行くところがない。休日、おしやれに体を動かせる場所に対するニーズもあるのではないかと考えた。

2階はプラネタリウムヨガスタジオ、1階は木材をふんだんに用いたフリースペースとし、木都能代のイメージを感じてもらえる場としている。

地元の方からは「何もない」、高校生や若い人からも「新しいものは都会にしかない」といった声を聞くが、秋田だからこそできること、競合が少ないからこそできることがあると思い、プラネタリウムヨガスタジオを立ち上げた。

（局長）

ほしのしろでは、放課後の高校生の姿をよく目にする。電車時間を待つ間に滞在し、高校生のコミュニティができていとも聞いている。

（D氏）

高校生による利用は、地域おこし協力隊の後任者が中心となって実現したアイデアである。

高校生に限らず、子育てママたちによるベビーマッサージなども行っている。

ヨガスタジオとしてだけでなく、フリースペースとして地域の方々が楽しく過ごせる場所としても活用していきたいと考えている。

（局長）

次に、若干見方を変え、「里にあるポテンシャルを活かした交流人口の拡大」という視点から、Eさんに伺う。

多彩な農業体験メニューや、果樹園内にある空き家のリノベーションによる遊び場づくりなど、「果樹園の観光地化」に向けたプロジェクトを進行中と伺っている。

果樹園をにぎわいの場として進化させていく狙いや今後の展望などについてお聞かせいただきたい。

（E氏）

三種町に住んでいる方々からも「何もない」ということをよく耳にする。

地域にあるお店の数も減少している。昔、森岳の温泉街には20店舗ほどがあったというが、今は8店舗しかないということで、寂しさを感じる。

農園は、小学校が丸々入るほどの敷地面積がある。その場所でリンゴだけに取り組むのは不安が伴うため、できるだけ商いを分散させ、安全を確保したいと考えている。

当初は、リンゴに農薬を用いていたが、近所の保育園からリンゴ狩りのお話をいただいた際、農薬を使っていることに若干の心苦しさ、もう少し安心して子どもたちに食べてもらいたいと感じた。そこから少しずつ農薬の使用を減らし、今年からは農薬を使っていない。

一方で、農薬がないと収量が減少し、リンゴによる収入が減少することから、それをカバーするため、地域になかったスーパーマーケットを開店した。そして最近、近くにできたドラッグストアによる影響を考え、お酒も楽しめる飲食店をオープンした。地域の方々には少しは喜んでいただいているかなと思っている。

将来的には、これらの取組を農園に集約したいと考えている。

家族や友達と農園に集い、青空の下で、自然の香りの中で味わうリンゴは格別だと思う。幸せを全身で感じてもらうことができる場所を目指し、整備を進めている。

（局長）

ここまで、「街にあるポテンシャルを活かした起業・にぎわいづくり」と、「里にあるポテンシャルを活かした交流人口の拡大」という視点からお話を伺ったが、知事からの御発言をお願いしたい。

（知事）

皆さんの話を非常に楽しく聞かせていただいた。

これまで、能代は全県から見て、若い人の動きが少ないと思っていた。能代は上下関係を重んじ、様々な会議やイベントにおいて序列に従って政治家が話をするような、保守的な地域だという印象がある。

商工業や商店街の振興については、人口が減少する中であって、単に店舗の内外装をリニューアルするだけで、商品もサービスも変わらないというのでは、経営が厳しくなっていくのは当然のことである。そこで、今までの取組とは別の視点が必要ということになるが、なかなか難しい。

県南では、他の地域の人たちとの交流があるため、商品やサービスを見る目が厳しい。例えば、角館や横手では、多くの県外観光客が率直な指摘をしてくるので、売るための対応が求められることになる。

皆さんの取組は、今までの商店街に同じものを作ることではなく、別のニーズを取り込もうとする新たな動きであり、能代もようやく動き出したという感じがある。

Dさんのプラネタリウムヨガスタジオについて、ヨガは宇宙や空間と一体になることができるというイメージがある。ヨガをプラネタリウムの中でやることには神秘性があり、ヨガの原点を感じる。なかなか出てこない素晴らしい発想だと思う。

Bさんのマイクロ野菜については、昨今の料理の楽しみ方として、食べるだけでなく、見て楽しむことも注目されている。

子どもは野菜が苦手な傾向があるが、このマイクロ野菜を食育にも活用できるのではないかなと思う。

Cさんの取組に関連して、これからはデジタルによる発信が一層重要となっていくが、地方都市には身近で相談できる場所がないのが実態で、大手に依頼すると他と同じようなテイストになりがちである。街の中心部に相談できる場所があり、ウェブを作り込むことができるというのは、利用者にとって心強いことだと思う。

Aさんの取組について、子どもが集う場所があると、街に対し保護者が求めるニーズを捉えることができ、商店街の振興に生かすことができるのではないかなと感じた。

Eさんの取組については、農園の中でみずみずしい果物を丸かじりしたり、ジュースを飲めるということは素晴らしい体験になる。我が国の農園は柵で囲われているが、ヨーロッパでは農園と街が一体的である。農業の後継者や子どもたちが農園の中に入り、体験してもらうことで、農業の大切さや楽しさ、食の豊かさへの気付きが芽生えてくるだろう。是非頑張っていていただき、農園の中での体験メニューを充実させてもらいたい。

皆さんのお話を聞いて、能代山本地域は一皮むけたと感じている。

行政が主導してもできることは限られる。行政は、民間の方々のアイデアを支援する側であることが望ましい。こうした関係があったからこそ、皆さんのような取組が動いているのだろうと思う。

意見交換（後半）

（局長）

正に知事が申したとおり、行政が支援側に回るという「押し付けないまちづくり」が大事だと感じる。

さて、地域に人を呼び込み、地域を元気にするためには、「街」「里」のいずれの視点においても、そこに眠る潜在能力を見いだし、地域の方々と一緒になって取組の輪を広げていく、挑戦と共感の連鎖が必要ではないかと感じる。

能代山本地域において挑戦と共感の連鎖を生み出すためには、皆様のよう挑戦の中心となる方や共感者をいかに増やしていくかが鍵になると考える。そのために必要な視点や取組などを御提言いただきたい。

（A氏）

会社を設立して1年だが、自分たちが動くことで周りの方々を巻き込んでいくことが大切だと実感している。

建物をリノベーションし、様々なイベントを開催する中で、当初は心配してくれていた方が「街がどのように変わっていくか本当に楽しみ」と言ってくれるようになり、今では一番の応援者となってきている。

周囲には空き店舗が多数あるものの、古い建物だから貸せないという所有者の方々が多かったが、マルヒコビルディングをはじめとするイベントが盛況であることを見ていただくうちに、そうした考え方も変わりつつあるように感じている。

誰かが頑張って始め、巻き込んでいくと、大きく変わってくるのではないかなと思う。

マルヒコビルディングにはクリエイティブな方々が集っており、最近になって高校生や中学生が訪ねてくることが増えてきた。デザイン、ディレクター、美術、建築関係など、今まで能代になかった職種への関心や進路の参考にしたいというニーズが背景にあるようだ。

これからも、マルヒコビルディングという場所を構えたことで生まれる連鎖を創出していくことができればと思っている。

（B氏）

平成26年から30年にかけて、秋田市のセリオンを会場とした「オーガニックフェスタ」というイベントのプロデューサーを務めていた。

イベントのプロデュースに当たり、無農薬で栽培する県内の農家を訪問し、約5年を掛けて県内の全市町村を回った。

訪問先では各市町村のキーマンとお会いし、各地のイベントをお手伝いしたりしてきた。

先ほど知事が指摘されていたが、能代は保守的な人が多い。他の地域を見ることも、他の地域から声がかかることも非常に少ない。

その空気感を変えたい、他の市町村の人たちが能代に来てくれるにはどうすべきかを考えたとき、まずはこちらから出向き、迎えに行かなければならないという思いに至り、以来、県内を走り回っている。

だが、こうした考えはなかなか理解されず、「能代をないがしろにしている」といったことを言われることがある。

自分は能代を盛り上げたいと思っているが、秋田県全域を盛り上げたいとも思っている。

高校生や大学生といった次世代の人たちと各地のキーマンをつなぐためにも県内を走り回っているが、こうした活動を応援してもらえればありがたい。

能代を盛り上げるため、まずは県内の他地域を盛り上げるという考え方があってもよいのではないかと思う。

（C氏）

チャレンジと共感の連鎖に必要なのは人間力だと思う。

地域おこしにしろビジネスにしろ、人との関わりが最も大事であり、目標とする人や尊敬する人に近づきたいと思うからこそ、チャレンジや行動を起こす。

そうした動きに対し、多くの人に関わってくことで大きな連鎖につながっていく。だからこそ、人とのつながりを大切にしたいと思っている。

移住体験ツアーで能代を訪ねた際、Aさんを紹介いただいたことで、起業に当たっては物件の相談など、Aさんからのサポートをいただいた。

会社を立ち上げる際には、会社を経営している義父などに相談したが、何か事を始めるには、こうした相談役となってくれる人の存在が欠かせないと思う。

チャレンジしていく中で、地域に眠る潜在能力を見いだすことができるのではないかと思う。

（D氏）

地域おこし協力隊として活動していた当時、様々な会議に参加した。様々な意見が出てくるが、それを誰が実行するのか、実際に取り組む人がいないという印象を受けた。

地域の方々は、新しく動き出した物事に対し、目に見える形になるまでは信じてもらえないが、いざ目に見える形になった時には手のひらを返すような反応になることを長野県で目の当たりにした。

そこで、能代において、まずは目に見える形で行動することが重要だと思い、ほしのしろをスタートさせた。

いざ開業してみると、そこに集まる方々との会話が生まれたり、「新しい楽しみができた」と言って喜んでいただいている。

県内だけでなく、県外からもプラネタリウムヨガスタジオがある能代に遊びに来てもらい、ヨガをしたついでに能代にある魅力に足を伸ばしてもらおうという動きにつながっていけばと思う。

プラネタリウムヨガスタジオの立ち上げに当たっては、県の補助金など行政のサポートが後押しとなった。会社を設立する際、都会であればどこに何を相談すればよいかすら分からなかったと思う。能代ではあきた企業活性化センターや能代市などがサポートしてくれた。

空き店舗が多いことは、新たな可能性を秘めた場所があるということであり、だからこ

そでることがある、ということでもある。ほしのしろの取組を発信していくことで、興味をもってもらえるようにしていきたい。

そして、新しいことを始めようとする仲間が身近にいるということは本当に心強いと思っている。困ったり不安になったときに話し合えるメンバーがいるということが支えになるので、ネットワークを大切にしていきたい。

（E氏）

仕事という感覚ではなく、「遊び」というつもりで、楽しむことを大切にして農園を営んでいる。

農園の観光地化に向けた活動をユーチューブで配信しており、完成までの苦労や大変なところも観てもらい、楽しんでもらえればと思っている。

そして共感が広がり、一緒に遊びたいと思ってくれる人が増えてくれればと思っている。

三種町内にある心療クリニックからは、利用者による活動として、農園の作業を手伝いたいとのお話もいただいております、来年からは、建物の大工仕事や農作業など、自然と触れ合いながらの仕事に携わっていただくことにしている。

身近には、元トリマーや元飲食店の店長など、スキルを持っているにもかかわらず、結婚を契機に一線から離れている方が多く、もったいないと感じている。

こうした方々が持つスキルを発揮できる農園にしていきたいという思いがある。

自分は移住して農園を引き継いだ、農園には歴史があり、ゆかりの方々もたくさんおられる。

変化を受け入れることは簡単なことではないとは思いますが、周りの方々が変化を楽しみ、受け入れてくれるようであれば、移住者にとって気持ちが高まるのではないかなと思う。

知事総括

皆さんのお話を非常に楽しく伺い、能代も捨てたものではないという印象を持った。

能代は周辺地域の中心であるべきであり、まずは、能代が中心となって、周辺の町とのネットワークを作ってほしい。

本日は、能代の中心市街地における新たな動向などについて伺ったが、こうした動きと周辺の町がつながり、ネットワークができれば、また新たな展開が生まれてくると思われる。

本日御参加の皆様には、年寄りに遠慮することなく、積極的に活動していただきたいと思う。

あと5年もすれば時代は大きく変わる。その時の主役は皆さんである。

地元との協調は、一定程度必要であるが、過度に引っ込む必要はない。

できることは応援するので、是非頑張ってください。（了）